

教科名	美術	科目名	中学美術 1	履修学年	中学	1	年 A, B, C, D, E	組	
単位数	週当たり1.5時間	使用教科書 教材等	美術 1 (光村出版株式会社) / 資料集						
担当者	清水恵郁								
学習目標	造形的なよさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想をし、構想を練り、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどに関心を持ち、深く味わう能力と態度を育てる。								
学習内容	美術の基本としての形と色についての学習を中心に、各課題のテーマを設定し制作する。 見ることから発想する思考を養い、手仕事としての実制作から創造的価値観を体現していく。								
授業方法	各学期にメインテーマを設定し課題を提示、課題説明とその技法、歴史等の学習をもとに実制作に応用しながら作品制作を行う。前期(4～9月)1時間授業、後期(10～3月)2時間授業								
評価方法	評価については、各学期のメインとなる課題提出を中心にして、授業のテーマによりいくつか演習課題を提示、提出作品を相対評価を加味した絶対評価で平均6.5～7.3を目標として評価する。 また年度末において1年間の学習内容の復習のためにペーパーテストを実施する。								
授業計画									
学期	月	学習内容・単元等						区分 1 評価	区分 2 評価
1 学期	4 月	「色彩の学習」 色相環や色の三要素とその相互の関連について理解し、軽重、寒暖の感じについて学ぶ。それらをもとに混色や重色による色の作り方を学ぶ。美しい配色や、イメージに合った配色を意図的に工夫できるようにする。						十二 の色 相環	
	5 月								
	6 月	「漢字からのイメージによる平面構成」(デザイン) 漢字をもとに自由にイメージさせ、発想を広げる。そのイメージにふさわしい形や色の表現を工夫する。						絵 文 字 作 品	
	7 月	レタリングの要領を知り、基本書体が正しくかけるようにする。 用具や材料の特徴を生かした楽しいイメージのデザインができるようにする。							
	8 月								
2 学期	9 月	「立体でとらえる」(粘土による表現) 量や動勢など立体を形成する要素に気づいて表現する楽しさを味わう。いろいろな角度から対象を観察し、立体として把握できるようにする。材料の特性を理解し用具を適切、安全に使用して制作する能力を養う。自己の制作意図、作業手順と作業内容を明確にし、計画性をもって作品制作を行う。						粘 土 作 品	
	10 月								
	11 月	「古代の美術」(学年末のテストに向けて) 古代の美術から(美術の成り立ち)東西の文明の始まりまでの美術の流れを学習。						ワ ー ク シ ー ト	
	12 月	「遠近法・図法」 物事が立体的に見える原理や法則を学び、理解する。							
3 学期	1 月	「こいのぼり 制作」(工芸表現) こいのぼりというテーマで風についてのイメージを膨らませる。 支持体としての和紙の特徴をしっかりと掴み、水彩の効果を生かして表現を試みる。造形に対する創作の工夫ができるようにする。 日本の伝統的な文化・表現に触れてみる。						学 年 末 考 査	ア イ デ ア ス ケ ッ チ ・ 工 芸 作 品
	2 月								
	3 月								

教科名	美術	科目名	美術	履修学年	中学	2年 全 組		
単位数	週あたり1時間	使用教科書 教材等	美術 2・3上 (光村出版株式会社)					
担当者	清水恵郁/高原尚司							
学習目標	造形的なよさや美しさなどを深く感じ取り、想像力を伸ばし、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想と構想を深め、デザインし制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどを深く味わい、美術と人間とのかかわりに関心を持ち、主体的に鑑賞する能力と態度を育てる。							
学習内容	対象を立体的に表す技法を学び、それが発明された時代ルネサンス期におけるレオナルド・ダ・ヴィンチについて学習する。また、墨絵の作画課題を通して豊かな発想力を養い、技能の向上を図る。							
授業方法	実技形式による授業を中心とする。美術鑑賞は歴史を学びペーパーテストを課す。							
評価方法	① 学びに向かう力、人間性…授業を聞く姿勢、遅刻等出席率、提出物、忘れ物がないか、作業進度 (約30%) ② 思考力・判断力・表現力…発想の面白さ、アイデアスケッチ、下絵、鑑賞のワークシート 他 (約30%) ③ 知識・技能…作品の丁寧さ、美しさ、完成度、道具の正しい用法、鑑賞のワークシート (約40%) 美術室の物の扱い、制作準備、片付け、作品やワークシートの提出期限等にも重点を置きます。 学期ごとに評価する。絶対評価を加味した相対評価で平均評価6.0～6.5とする。学期評価3点以下は再提出とする。							
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等					区分 評価 1	区分 評価 2
1 学期	4 月	「水墨画」 筆の扱い、墨の濃淡による表現効果の違いを何回かの演習を経て理解する。 また、過去的水墨画等を模写し、表現の技能を身に付ける。 見慣れた風景を、空気遠近法的見方で意識的に観察することで新鮮にとらえてみる。 自分自身の感覚や実感に基づく感動を素直に表現することの大切さを理解する。					演習 表現	
	5 月							
	6 月						水墨 画 作 品	
	7 月							
	8 月							
2 学期	9 月	「絵画鑑賞-レオナルド・ダ・ヴィンチとルネサンス」 三大巨匠について学び、西洋美術史に対しての理解を深める。 また、なじみある絵画や画家を授業で取り上げる。、そこに秘められたストーリーや画家の 思いを理解しようとする豊かな心を養う。					ワー ク シ ー ト	
	10 月							
	11 月						作品	
	12 月							
3 学期	1 月	「漫画」 現代の日本文化とも言える漫画について学び、成り立ちについての理解を深める。 即興性を活かし遠景、近景を意識し漫画として表現する。形態やストーリーにあった発 想、即興性などの視覚的構成力を養う。					学 年 末 考 査	漫 画 作 品
	2 月							
	3 月							

教科名	美術	科目名	美術	履修学年	中学	3年	全	組	
単位数	週あたり1時間	使用教科書 教材等	美術 2・3 上 下 (光村出版株式会社) / 資料集						
担当者	高原尚司								
学習目標	造形的なよさや美しさなどを深く感じ取り、想像力を伸ばし、主題を表現する能力と態度を育てる。 目的や条件に応じて豊かな発想と、用と美の調和を理解し構想を深め、制作する能力と態度を育てる。 自然や造形作品を鑑賞し、そのよさや美しさなどを深く味わい、美術と人間とのかかわりに関心を持ち、主体的に鑑賞し深く味わう能力と態度を育てる。								
学習内容	対象の多様な表現方法を学び主題を明確にする。美術鑑賞では時代を追って6年間で学べるよう、古代の美術史から学習する。								
授業方法	実技形式による授業を中心とする。美術鑑賞は歴史を学びペーパーテストを課す。								
評価方法	① 学びに向かう力、人間性…授業を聞く姿勢、遅刻等出席率、提出物、忘れ物がないか、作業進度(約30%) ② 思考力・判断力・表現力…発想の面白さ、アイデアスケッチ、下絵、鑑賞のワークシート 他(約30%) ③ 知識・技能…作品の丁寧さ、美しさ、完成度、道具の正しい用法、鑑賞のワークシート(約40%) 美術室の物の扱い、制作準備、片付け、作品やワークシートの提出期限等にも重点を置きます。 学期ごとに評価する。絶対評価を加味した相対評価で平均評価6.0～6.5とする。学期評価3点以下は再提出とする。								
授業計画									
学期	月	学習内容・単元等						区分1 評価	区分2 評価
1 学期	4月	「木版画」 日本の伝統や文化の良さを再認識できるテーマを考え、版画を制作する。 彫刻刀の正しい用法について学び、安全面に留意しながら表現する。						木 版 画 表 現 の 修 得	
	5月								
	6月	「美術史・仏像」 仏像の種類や作り方について、修学旅行の事前学習を兼ねて行う。仏像は信仰や礼拝の象として作られたものではあるが、美術としての美しさを細部にも目を向け鑑賞する。							
	7月								
8月									
2 学期	9月	「自己と向き合う」 思春期という時期を踏まえ、自分の性格や特徴を受け入れ認めていくために自分をもとにしたキャラクターを考える。そのキャラクターを用いてスクラッチ作品を制作する。						ス ク ラ ッ チ 作 品  学 年 末 考 査	
	10月								
	11月	「学期末試験」 仏像の成り立ちと近代美術の理解そして表現の基本の修得を、授業における理解度をふまえて確認する。							
	12月								
3 学期	1月	「印象派・ゴッホ・ジャポニズム」 印象派の画家について学ぶ。ジャポニズムを取り上げ、日本画と洋画のつながりや影響について考察する。						レ ポ ー ト  デ ッ サ ン 素 描	
	2月								
	3月	「鉛筆デッサン・静物」 形体のとらえ方、明暗、陰影の表し方、比例、均衡、動静など構図を考え立体感を表現する。また材料、用具の適切な使用法を学ぶ。							